

令和5年度 第155回 奈良市清掃業務審議会 会議録概要版

開催日時	令和6年3月26日(火)10時00分から11時20分まで		
開催場所	奈良市環境清美工場 管理棟2階 見学者ホール		
出席者	委員	河野委員、作間委員、佐野委員、清水委員、田島委員、徳野委員、中岡委員、原田委員【計8人出席】	
	事務局	山口環境部長、上田環境部理事、鈴木環境部次長、秋田環境部参事 廃棄物対策課：山森課長、川本係長、林係長、森、上田 収集課：山田課長、まち美化推進課：上村課長、環境清美工場：干場工場長 土地改良清美事務所：浦川所長、環境政策課：増田課長 クリーンセンター建設推進課：西川課長	
開催形態	公開（傍聴人0名）	担当課	環境部 廃棄物対策課
議題又は案件	・報告事項1 令和6年度奈良市一般廃棄物処理実施計画について ・報告事項2 奈良市災害廃棄物処理計画の改定について ・報告事項3 奈良市新クリーンセンター施設の事業概要について ・報告事項4 その他		
決定又は取りまとめ事項	報告事項1から4まで報告。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
1. 令和6年度奈良市一般廃棄物処理実施計画について 事務局より、令和6年度奈良市一般廃棄物処理実施計画について、令和5年度計画との変更点を中心に報告した。 主な変更点として、ペットボトルの水平リサイクルに関する協定を締結したことによるペットボトル最終処分方法の変更、3Rの推進に係る取組みとして、事業用生ごみ処理機導入費用の助成事業追加、草木類の中間処理及び最終処分の手法の見直し、家電リサイクル法対象製品に有機ELテレビが追加されたことなどが説明された。  （委員からの意見） ・一般廃棄物処理基本計画の進捗状況に掲げる令和6年度のごみ搬入量推計値と廃棄物収集運搬計画に掲げる令和6年度の収集運搬推計量が一致しないため、推計値の算出方法を教えて欲しい。 →事務局から、収集運搬する廃棄物量のうち、家庭系の再生資源及び事業系の生ごみは、再生資源化処理されるため、ごみ搬入量に含まれないと説明があった。 ・事業系ごみの搬入量について、令和6年度推計値が前年度から減少した量で推計されているが、コロナが明け、外国人観光客が増え、事業も再開されていく中で、減少を見込めるのか。 →事務局から、事業用生ごみ処理機導入助成事業を開始すること、雑がみ等古紙類の減量について、家庭に限らず、事業者に対しても商工会議所等を通じて啓発を行い、取組みを促していくことの説明があった。 ・雑がみの減量について、雑がみ保管袋を配布しているが、別の自治体の事例では自治会での再生資源の集団資源回収に報奨金を出している事例もある。雑がみ減量に向けた取組みは、地域の活動と連動したら効果がでるのではないか。			
など			

## 2. 奈良市災害廃棄物処理計画の改定について

事務局から、奈良市災害廃棄物処理計画について、令和5年10月25日に一般社団法人奈良県環境保全協会と「災害時におけるし尿及び浄化槽汚泥の収集運搬に関する協定」を締結したことを報告し、奈良市災害廃棄物処理計画に当該協定を追加する改定を行うと説明した。

## 3. 奈良市新クリーンセンター施設の事業概要について

事務局から、新クリーンセンターについて、候補地域の地理的特性、ごみを焼却する熱を利用した発電及び敷地内での農作物の栽培などによる地域エネルギーセンターとしての役割を説明し、ゼロカーボンシティ実現に向けた施設の建設に係る現在の概要を報告した。

(委員からの意見)

・最新鋭のクリーンセンターは、従来のごみ処理施設としてのイメージはなく、非常にキレイな施設となっている。これまでのごみ処理施設の印象を払拭するためにも、それらの施設の見学会といった機会を設けると良いと思われる。

・希望に応じて住民説明会を開き、ごみ処理施設に感じられるイメージを改める機会を創出し、賛同を得ることが大きな後押しになるのではないかと。

・ごみは毎日であるため、現行処理施設の老朽化は、市民全体の関心事である。市と地域の自治連合会が一丸となって協力しあい、事業を進めてもらいたい。

など

## 4. その他

事務局より、その他の報告事項について、令和6年2月5日から同年3月1日まで実施した、能登半島地震被災地での災害ごみ収集運搬支援について報告した。

能登半島地震被災地への支援は、石川県七尾市にごみ収集車両及び人員を派遣し、現地での災害廃棄物収集運搬作業を行ったことを説明した。